

「第6回 大阪城東部地区まちづくり検討会」 議事要旨

- **日時** 令和6年2月13日（火） 15時30分から16時45分
- **場所** 大阪府庁 新別館南館8階 大研修室
- **出席者** 別添「出席者一覧」のとおり

■ 議事要旨

以下資料により、各委員と意見交換を行い、2028年春の新駅開業とともに、駅前となる大阪公立大学や周辺の1.5期開発のまちびらきに向けて、1.5期開発の開発方針についてとりまとめ、取組みを進めていくことを確認した。

(資料)

- ・次第、配席図、出席者一覧
- ・資料 1. 5期開発の開発方針について

■ 議事内容

1. 開会

○吉村知事（大阪府知事）

- ・これまで大阪城東部まちづくり検討会を5回重ねてきた。この場を借りて先生方、また関係者の皆様に感謝を申し上げる。
- ・大阪のまちづくりにとって「大阪城東部地区のまちづくり」は極めて重要である。大阪市の横山市長と大阪府市で連携しながらこの間、大阪の都心部のまちづくりに取り組んできた。
- ・大阪といえば南北軸が非常に重要な都市づくりであった。新大阪・梅田・難波の「キタ・ミナミ」を結ぶ南北軸が重要なまちづくりの柱だったが、今後は東西軸を加えたまちづくりがより重要になる。
- ・昨年度に策定した「大阪のまちづくりグランドデザイン」においても、この十字のまちづくりのあり方は非常に重要であり、ニシの拠点は大阪・関西万博や統合型リゾート（IR）を含むベイエリアである。ヒガシの拠点は森之宮を含めた大阪城東部地区で、非常に高いポテンシャルがあるエリア。
- ・難波宮跡、そしてこの大阪城東部地区では未利用地等もあるため、大阪城公園と一体となった東部のまちづくりは大阪の成長という面で極めて重要である。
- ・ここに大阪公立大学の新キャンパスを知の拠点として作り出すために府市で進め、2025年秋には1期キャンパスが開設される。そして、2028年の1.5期開発ではOsaka Metroの新駅開業も含めた開発がいよいよ現実味を帯びてきた段階。
- ・本日、ヒガシの拠点の開発方針について、大阪府市で協力しこの東部地区のまちづくりが着実にスタートする大きな方向性として取りまとめた。皆様の活発なご意見をお願いしたい。

2. 議事

■ 1. 5期開発の開発方針について（資料）

○事務局（大阪都市計画局）

- ・「第5回検討会における主な意見」について、1.5期開発に関する意見は開発方針への反映や事業化段階において検討を行い、地区全体に関する意見は、今後、まちづくりの方向性の改定等において検討を行う。
- ・開発方針の反映させたものとしては、全体として、国際拠点やリゾーニングという考え方、駅・駅前空間は駅を中心としたまちづくり、1.5期全体で一体的な検討、ウォークアブルなエリア、C地区は権利者関係の整理など具体的な検討、アリーナ・ホールは大学がいつでも使えることが有効というご意見をいただいた。
- ・今後、事業者選定の評価など事業化段階において検討するものとして、全体として、人々が生活しやすいという視点やユースカルチャー拠点の方向性、景観形成は一体での景観形成の検討、DX・GXは人流などリアルタイムに計測することによりまち全体のエネルギー消費をコントロールするこ

と、デジタルなインフラの総合的な計画に最初から取り組んでいくべきであるとのことをご意見をいただいた。エリアマネジメントへの取り組みについてもご意見をいただいた。

- 地区全体に関する意見として、大阪城を中心に大きなスケールでのまちづくり、道路等は今後京橋方面と繋がる豊里矢田線の検討と豊田矢田線の愛称をつけてはどうかというご意見、DX・GXはスマートという言葉はDX・GXと言い換えてはどうかというご意見をいただいております、これらについては今後のまちづくりの方向性の改定等において検討をさせていただきます。
- 本日の1つ目の確認項目である「開発方針の位置づけ」については、これまで、2020年に大阪府市により策定した「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」等に掲げるイノベーション・コアゾーンの実現に向け、新駅の整備や2022年12月に開催した第4回検討会でご確認いただいた内容を踏まえマーケットサウンディングを実施し、その結果を参考にOsaka Metro・大阪公立大学の今後の開発構想の提案を踏まえ、年末に開催した第5回検討会での意見を考慮し、事務局として開発方針を作成した。
- 本日この方針案を関係者の方にご確認いただき、関係者で共有する1.5期開発の具体的な土地利用・基盤整備の方針を本検討会として策定することとしている。今後、1.5期開発の開発方針に基づき、関係者が協調して、基盤整備や開発事業者の公募などを進めていきたい。
- 「1.5期開発に向けたマーケットサウンディングの実施」結果について、A地区では大学施設や学生寮・貸オフィスなど、B地区ではアリーナ・ホール、ホテルなど、C地区では次世代交通等の拠点となる駅前広場などの提案を6団体の方からいただいた。
- 「Osaka Metroの開発構想(案)」について、具体的なプロジェクトとしては、新たなまちづくりを中心として、地域のにぎわいの向上につながる駅ビルの整備や、アリーナ・ホール等といった大規模集客施設によって、周辺地域だけでなく、広域から人を集め、交流を促すまちづくりを実現していく。森之宮において新駅・駅ビルを整備し、その屋上に空飛ぶクルマの離発着場の検討を進める。アリーナ・ホール等の概要としては収容人員1万人以上の規模を想定しており、コンサート、スポーツ等の多目的な利用とし、地域や大学による利用も検討する。
- 「大阪公立大学の開発構想(案)」は、「知の拠点」として、当地区のイノベーション・コアを牽引し、大阪の発展に寄与するという視点から、1期キャンパスの2025年秋の開設をめざして工事等を実施している。その施設整備の中で、IoT化された空調・照明などの導入や、中浜下水処理場の下水処理水を、空調の熱源やトイレ洗浄水の水源として活用する。1.5期キャンパスについては、民間活力導入によるキャンパスの整備により都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能のさらなる充実を図るとともに、森之宮キャンパスの機能増進と相乗効果を期待できる施設整備の民間提案を求める。
- 本日の2つ目の確認項目である「開発方針(案)」については、土地利用の方針として、イノベーション・コアゾーンの実現に向け、その中核となる大阪公立大学の1.5期キャンパスについては、民間活力導入による情報学研究科等の整備や森之宮キャンパスの機能増進、研究機能との相乗効果を期待した施設整備を行うことにより、「知の拠点」の形成を図る。また、駅前立地と大規模用地を活かし、国内外からの集客や大阪城ホールとの相乗効果を発揮するとともに、大阪公立大学を中心とした学术交流・ビジネス交流促進や、市民の交流にも寄与するアリーナ・ホール等を中心とした複合開発により、集客・交流空間の形成を図る。さらに、新駅及びその上部空間を高度利用した駅ビル、駅ビル屋上への空飛ぶクルマのポート整備とともに、鉄道、バスなど様々な交通を有機的に結ぶ交通結節点となる交通広場や、にぎわい・憩いの創出に資する人中心の広場を備えた新駅・駅前空間の形成を図る。今後、土地利用の方針や基盤整備の方針などをもとに、土地利用転換にあわせた地区計画の変更を検討するとともに、区域全体での施設の最適な配置となるよう一体的な開発を推進していく。なお、Osaka Metro(大阪市が出資し設立した法人)による新駅と一体的な駅前空間の整備実現に向け、出資目的や公共利用目的などの観点から、大阪市用地であるC地区のOsaka Metroへの売却を検討する。
- 「基盤整備の方針(歩行者空間)」は、広域的な観光振興の観点から、大阪城公園と開発地区の観光拠点をむすび、にぎわいの創出や回遊性を高めること、当地区の利用者の利便性、快適性などの観点から、大学キャンパスから大阪城公園駅をつなぐ歩行者空間のネットワーク化をめざす。民間開発にあわせた歩行者空間の整備や確保、水辺の歩行者空間の整備とともに、公民が協働したデッ

キなどの整備により連続した動線の整備を進める。

- ・「想定スケジュール」として、2023年度内の新駅に係る都市計画手続きの着手、2024年度の事業者公募など、必要な手続きを進め、1.5期開発の2028年春からのまちびらきをめざしていく。

○高橋座長（大阪市副市長）

- ・土地利用方針について、大阪市用地であるC地区のOsaka Metroへの売却について検討するとのことだが、制度所管局である大阪市契約管財局との調整状況について補足説明を願いたい。

○事務局（大阪都市計画局）

- ・事務的には大阪市の契約制度を所管している契約管財局と協議を進め、ここに記載している内容で今後、手続きを進めていく方向で調整を進めている。

■意見交換

○河井社長（Osaka Metro）

- ・本案件にかける当社の思いと構想をお話する。
- ・当社は大阪全域の発展に貢献する生活まちづくり企業として、大阪の大動脈である南北軸の御堂筋線に続き、東西軸の中央線を強化し、大阪の更なる発展に寄与することをめざしている。その中で、2025年の大阪・関西万博、2030年に開業をめざすIRが期待されている西の拠点である夢洲の開発に積極的に貢献していくとともに、このたび、東の拠点となる森之宮のまちづくりに着手する準備が整った。これもひとえに、大阪府・大阪市、本日もご列席の関係者の皆様のお力添えによるものであり、御礼を申し上げたい。
- ・今回も森之宮のまちづくりにおいて、当社は国際都市大阪の観光拠点である森之宮に、大阪公立大学様を先導役として、技術や知識、そして多世代・多様な人々が集い、交流する国際色あふれる場を創出したい。それはまさに当社がめざす活力インフラの体现である。今までにない新しい魅力、そして価値の創造にチャレンジし、他地域にない独特の魅力溢れる、Osaka Metroのまちづくりを着実に推進したいと考える。
- ・大きくは発表している新駅を中心に、世界に類のない最先端の交通結節点を作りたいと思う。地下鉄・バス・オンデマンドバスに加え、他のモビリティとも結節し、シームレスな移動の実現と地域間の回遊性を高める次世代型交通ターミナルをめざす。また、次世代鉄道システムの導入に向けた実証実験の場として、鉄道技術を進化させるだけでなく、カーボンニュートラルの取り組みを進め、SDGsの達成にも貢献したい。さらにデジタル化最先端のまちづくりを進め、圧倒的に便利で快適な大阪を実現してまいりたい。
- ・新駅に関して、同時に計画する駅ビルと駅前広場を三位一体で環境整備・空間形成に取り組んでまいりたい。これに合わせて、第二寝屋川沿いの水辺空間の整備も積極的に行う。鉄道利用者だけでなく、地元の城東区民の皆様を初め、国内外からも多くの方々が訪れる魅力あるまちにしていきたい。
- ・土地を所有しているB地区は、前回の第5回検討会で公表したとおり、収容人員1万人以上のアリーナ、大規模集客施設、交流施設を検討中である。近畿圏で不足しているコンサート会場需要を充足し、既存の大阪城ホールとの相乗効果、住み分けにより、大阪城公園・森之宮地区の価値向上に必ずや貢献できるものと考えている。また、大阪城東部地区のまちづくりのコンセプトである「多様なひと、機能、空間、主体が交流する「クロスオーバーシティ」」にも寄与できると考える。
- ・新駅の駅ビル上部に整備予定の空飛ぶクルマの離発着場については、今回森之宮で当社がめざす次世代型の交通空間形成のための核の一つとして検討している。新駅・空飛ぶクルマ・水辺空間のコラボレーションにより、陸運・空運、そしてできれば水運までの輸送手段が繋がった日本初の交通結節点をめざしたい。
- ・大阪市所有のC地区（旧森之宮清掃工場跡地）については、当社が開発する新駅の駅前の重要な場所であり、当社がめざす魅力的かつ新たな価値が創出できる駅前空間となるように、当社として積極的に関与させていただきたい。
- ・引き続き皆様方のご支援とご協力をよろしくごお願い申し上げます。

○福島理事長（大阪公立大学）

- ・本日は、知事市長ご出席のもと検討会を開催いただいたことに御礼申し上げます。大学の森之宮の1期キャンパスがいよいよ来年2025年秋にオープン予定であり、現在、建設も順調に進行している。大阪府市初め関係者の皆様方の本当にご支援ご協力の賜物であり、感謝を申し上げたい。
- ・大阪城東部地区のまちづくりのコンセプトは「大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ」であり、この森之宮キャンパスは、約6000人の学生と教職員が集う教育研究の拠点であるとともに都市シンクタンク機能と技術インキュベーション機能から産学連携、スタートアップ創出のヘッドクォーター機能の役割を担う拠点である。
- ・先ほどの森之宮1.5期開発の開発方針を聞き、私個人的には何か新しいまちができると感じ、大変わくわくしている。大学としても、「知の拠点」としての機能を果たしつつ、また今回民間活用の検討をいただいているため、これも含めてこの地域の先導役としてまちづくりに貢献をしていきたいと考える。
- ・本学は「知の拠点」として、国際力を強化し、グローバルな発展をめざすとともに大学の強みである総合知を発揮し、行政や民間の皆さんとともに、具体的な連携共創により実証実験から社会実装へとつないでいき、そして、大阪や日本の産業力強化に貢献したいと考えている。
- ・当該地区のまちづくりの方向性並びに開発方針では、1.5期開発を含むこの地区はイノベーション・コアゾーンに位置付けられている。この地区にある大阪公立大学は、地区の中核となる役割があると大変期待されているのではないかと思います。私どもとしてはその期待に皆さんとともに応えていきたいと考えている。今後、Osaka Metroさん始め、皆様方の知恵を頂きながら、特にメトロさんとは、1.5期開発を進めていく際にいかにイノベーションを誘発するかという仕組み等についても、一緒に検討させていただきたい。

○村上支社長（UR 都市機構）

- ・私も今回の内容について心が弾むが、具体的に1.5期開発がもう目に見えてきて、非常に良いまちになった実感がある。特に開発方針（案）の基盤整備の方針で、大阪城公園からつながる歩行者ネットワークが明示されており、人の回遊性という意味で非常に効果的だと思う。全体コンセプトで大阪城東部地区だけではなく、北側の大阪ビジネスパーク（OBP）、その先の京橋、それから大阪城を取り巻くエリアも含めて、全体でヒガシの核になるようなまちづくりができればより良いことである。
- ・イノベーションをどうやって起こすか、イノベーション・フィールド・シティがお題目であるため、大阪公立大学があるため達成しやすいと考える。しかし、イノベーションは大阪公立大学や企業だけでは起きず、地元の方々も含めて総合知として色々なダイバーシティ的な機能の結集がイノベーションを起こすと考えるため、ぜひともその部分に私どもも尽力していきたい。
- ・具体的には、昨年梅田に支社を移しており、森之宮にある旧支社を使って社会実験ができればよいと思っており、大阪公立大学や経済界とも話をしている。昨年、まちづくりとは相反するような生物学的なテーマでの大学とワークショップを行い、なかなか新しい気づきもあったため、ソフトの取り組みから徐々に行っていきたい。

○緒方副社長（JR 西日本）

- ・大阪府は非常に魅力的な場所がかなりあるが、1.5期開発の話聞き、さらにそれを上回るような魅力的な経験ができるのではないかと胸が踊る気持ちだ。
- ・この土地は、大阪城公園や水辺空間の豊かな環境がある中で、都心でしかも大学を中心としたイノベーションの起点になるため、他のエリアにはないかなり特色のあるエリアになるのではないかと期待している。
- ・今回、開発方針（案）の基盤整備の方針で示された大阪城公園接続デッキでは歩行者動線の回遊性をもたらすとともに、ウォーカブルなまちと公共交通をつなぐものと考えており、当社も前向きに検討を進めてまいりたい。また、大阪城公園駅は、新しいまちにとって重要な結節点となることを踏まえ、より良い駅になるように今後も工夫してまいりたい。歩行者動線は、単に作るということ

ではなくて、歩きたくなるような居心地の良さ、さらにデザインに優れた空間にできないか、関係者とともに検討を進める。

○下條委員（青森大学）

- ・情報あるいはスマートシティの専門家として、まさにこういう新しいまちが出来上がることに期待している。何より先ほど皆さんがお話になっている「イノベーション」というのは、大学が中心、もしくはハブとなって、結びつけていくという役割をするのだろう。ここに大阪公立大学が来ていただくことは非常にイノベーションが期待できる。交通中心として色々な人々の賑わいやふれあい・交流が進んでいくのは非常に期待したい。
- ・一方で、開発構想（案）等を見ると、実は中国語で「交通」というと「情報通信部も含む」ため、物理的な交通だけではなく通信や情報の流れも交通に含まれるという意味で利用されている。この観点が少し欠けており、今後スマートシティや健康、あるいはモビリティを考えるにあたって、情報の流れがよどみなく流れていくことが重要である。色々な方々がビルやアリーナを建設しているが、例えばその情報がうまく流通しなかった場合、混雑の程度が他の場所には伝わらない、レストランが準備できないというようなことが起きる。公営的に情報が流れる空間を同時に設計していくことがDX・GXにとって非常に重要なことである。おそらく21世紀のまちづくりは、電気・水道・道路と同じように情報のデザインが根本的に重要であると考えられるため、そこを忘れないでいただきたい。幸い大阪府市は大阪広域データ連携基盤（ORDEN）を整備しており、このデータ連携基盤は21世紀をめざしてこのような基盤を作るためにいち早く国と一緒に取り組んでいる事業だと思う。そこがまさにテストベッドとしてこの空間をうまく生かすことができれば、大阪が世界でも先進的な情報と交通を合わせた都市になる。このイノベーションを大阪公立大学が中心になり、産学連携で新しいビジネスを起こしていくことを期待したい。

○嘉名委員（大阪公立大学）

- ・1つ目は、周辺の機能再編に繋がるようなまちづくりをぜひお願いしたい。谷町四丁目・森之宮・天満橋・大阪城・京橋・OBPという周辺エリアの活性化に繋がるような起爆剤としての大阪城東部地区のまちづくりである。大阪城東部エリアを周辺が呼応する形で、大阪のヒガシが發展していき、ひいては大阪全体の發展に繋がるという大きな目線もぜひ捉えていただきたい。
- ・2つ目は、今回の目玉であるB地区・C地区、それから新駅・駅ビルについて、河井社長から力強い表明があり、私も大変楽しみにしている。ぜひ、最先端のまちづくりを実現していただきたい。例えば、イギリスであればロンドンのキングスクロス、それからニューヨークであればハドソンヤードなど最近の潮流としては駅前の最先端のまちづくりであり、これはカーボンニュートラルやDX・GXというような最先端のまちづくりであり、新しいイノベーションをまさに生み出しているというまちづくりのオンパレードである。そのような中で大阪の森之宮と胸張って言えるような最先端のまちづくりはどのようなものかということだ。最先端であるためなかなかわかりにくいところはあるが、陸・水・空の一体的な交通のあり方や、おそらく50年前の駅前の作り方とは全く異なる可変性・拡張性、それからモビリティと人との共存など新しいコンセプトを出していけるようなまちづくりをぜひ実現していければと考える。
- ・Osaka Metroの開発構想（案）にある新駅・駅ビルのイメージについて、普通駅前空間と駅ビルの敷地を分けて検討するが、もう少し柔軟に考えて、建築と土木の領域や公共と民間の領域を曖昧にすることでより良い駅前空間ができるのであれば取り入れていただきたい。今回Osaka Metroが敷地を一体化して検討するならば、ぜひこの部分もよりよい形を考えていただきたい。駅ビルはどうしても駅ビルの敷地が決まってしまうため、細長い敷地に屏風のように建ってしまう場合がある。今回はそういう意味では、もう少し柔軟に考える余地があると思い、ぜひいい物を作るという意味で、柔軟にお考えいただきたい。
- ・3つ目が公共空間や景観の話で、大阪城は大阪市の景観重要建造物に指定されており、眺望景観としてとても大事な場所だという位置づけもある。大阪公立大学のキャンパスも景観形成にかなり配慮していただいたという経過もあって、ぜひ駅ビルやB地区・C地区も全体の景観の中で配慮をお願いしたい。

- ・併せて今回整備される水辺の歩行者空間や大阪城公園接続デッキ、それから豊里矢田線のような公共空間のデザインも最先端であってほしいと思い、質の高いデザインをどうやって担保するか、例えばコンペとかプロポーザルとかすごく質の高いものをどのように実現するかについてぜひご検討いただければと思う。
- ・エリアマネジメントや社会実験・社会実装について、村上支社長からもお話があったが今年がとても重要である。開発方針（案）想定スケジュールで、①②③④と段階的に整備していくイメージだが、例えば「③多世代居住複合ゾーンの整備」や「④拡張検討ゾーンの整備」はまだ先で、それまでは何もしないのではなく、空欄の部分で社会実装に向けた社会実験やトライアル、それから関係者の中でどのような試行錯誤があるかみたいなことをやっていくその中で次のまちづくりに繋がっていくことがとても重要である。プロセスを充実させていくということをお願いしたい。

○岡井委員（立命館大学）

- ・大学を中心としたプロジェクトができることを本当に期待している。最先端の技術を導入した街区になっていくことが考えられ、そのためにはゼロエネルギーの建築物にするなど環境面ですぐ思いつく取り組みもある。駅前空間など駅を中心としたまちづくりをすることで人を中心とした地区になることは間違いないと思うが、駅とそこからさらに遠くに行くためのバスや自転車やキックボード等のスローモビリティとのコネクが非常に重要になる。ぜひデジタル化の力を借りることで、自分が何分に着くからその先で自転車が利用できるというような、歩行者が快適に移動できるネットワークをこの地区から始めていただきたい。日本の公共交通は民間で運営しているため、会社が変わると接続性に欠ける場合がある。今後、公共交通を中心とした移動を考えていくと、一体的なネットワークやシステムを組むことは本当に重要である。
- ・先ほど吉村知事から東西軸が重要であるという話があり、ちょうど東西軸の1つとして第二寝屋川がある。大阪公立大学から大阪城公園への移動は、多くの若者を中心としたニーズがあり、歩いて楽しい空間が一番大事だ。歩行者空間の歩く部分のみを整備するのではなく、歩いて楽しいと感じられる空間にするために、ぜひ水都大阪として川の整備を進めていただきたい。季節の良いときにはゆっくり歩くだけでも楽しいし、そこで休憩したり、日向ぼっこをする人がいるような、まさにフランスのパリのセーヌ川の両岸はこのような歩行者空間であり、その姿をめざしていただくととても良い空間になるのではないかと。東西軸で少し気になったのが、水辺の歩行者空間を通行するのは良いが、それだと大阪城へ行くのに遠回りになるため、駅ビルの建物の中をうまく工夫することで通過してもいいようなプランニングがあると、効率的に歩くこともできるルートになる。両方のルートができればいいと思う。
- ・A地区に学生寮の提案があったが、近くにUR団地があるためそこを学生寮として使えるようにしていただきたい。例えば、家賃を安くすることで地域活動に参加してもらえらる形をとると地域にもメリットがあり、学生にも経験という意味で非常にメリットがある。地域活動として、町内会が取り組む活動や高齢者の見守りなどがあるかもしれないが、今後この地区でエリアマネジメントを立ち上げる時には学生にも担ってもらえる活動をするなど、地域の中で学生を育てていくことも大事だと思う。
- ・研究者の一時滞在寮を整備していただけると、海外から来た研究者が1~2ヶ月の期間で大阪公立大学で研究し、ここで日本の研究者と交流をすることで、その場にいた学生も刺激を受けることで、グローバルに活躍するような人材が育っていく。少し理想ばかりかもしれないが、海外で活躍する若者をぜひ大阪の森之宮から育てていただけると本当に嬉しい。また、インキュベーション機能には非常に期待しており、このような機能があることでこのエリアがより発展し、このプロジェクトのコンセプト「大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ」につながるだろう。

○橋爪委員（大阪公立大学）

- ・今回の議論の中で、10,000人規模のアリーナができることに注目をしている。この10年ぐらい大阪の都市間競争において、弱点の一つが10,000人規模のアリーナがないということであった。大阪城ホールは10,000人以上を収容できるが、コンサートの使用時には半分に割れるため6,000人しか収容できない状況である。色々なコンサートホールのうち、5,000人規模は大阪城ホールか、30,000

人の京セラドーム大阪となり、10,000人のアリーナがないというのが課題であった。各地で提案をしてきたが実現してこなかったのが、今回、方向性が示されて安堵している。

- 1点目は、「アリーナを核としたまちづくり」をぜひ進めていただきたい。北海道北広島市には北海道日本ハムファイターズのスタジアムができて注目されている。日本各地で収容人数10,000人規模などのアリーナが続々とできています。たとえば長崎市の長崎スタジアムシティには、ホテルとアリーナと様々な商業施設が複合した施設ができ、神戸市ではみなと緑地PPP（港湾環境整備計画制度）を用いてアリーナができる。従来のアリーナ・スタジアムが公園の中に孤立しているのに対して、今は野球で言えばボールパーク型、アリーナも試合とかコンサートがない時もわざわざそこに行くような、そういうアリーナを中心としたまちを考えて、各地で競い合うかたちになっている状況である。その中において、鉄道駅直結のアリーナを中心とした今回の案件は優位性があり、魅力あるまちづくりができると考える。ぜひOsaka Metroとして初めての駅ビルかつ初めての駅前広場をもつ駅の周辺開発を非常に魅力あるものとして作っていただけることを期待している。
- 2点目は、前回の検討会でも申し上げたが、大学キャンパスと1.5期開発の流れでA地区については親和性があるが、B地区とC地区はアリーナを中心としたまちづくりと考えたときに、1.5期開発の中のイーストとウエストを分けて、ゾーニングの考え方で少し導入機能の方向性を分けることも必要ではないかと考える。イノベーション・コアゾーンという名前はそのままとしても、道路の東西で少し性格を変え、特に西側はこれから国際集客も含めた賑わいのあるまちにしていかなければいけない。考え方を今後整理していくべきと考える。
- 3点目として、「防災」はとても大事と考える。大学キャンパスに約6,000人の若い人がいて、アリーナで様々なコンサート等を行う際には約10,000人、まち全体で約20,000人が集まるエリアになる。発災時においてどのように考えていくのか、重要な場所になる。
- 4点目は、「シームレス」について。今の国土形成計画の近畿圏広域地方計画の副座長として進めているが、「シームレス」がキーワードになっている。様々なデジタルの交通網・情報も含めて、このエリアで人の移動やアクティビティがシームレスにつながっていくということが重要と考える。DXとかスマート化の先にあるのは、我々がシームレスにまちで滞在できる、あるいはシームレスに場所へ移動できることである。「シームレスなまちづくり」で日本のトップを走るようなものができればと考える。
- 5点目は、スケジュールの件。従来想定していなかったアリーナという集客施設が入るため、2期・3期開発も、アリーナがあることを前提として検討を始めるべき段階ではないか。現在、2期・3期開発については先に送られている感じがあるが、開発着手は先としても、先ほどUR都市機構からもあったが魅力ある2期・3期開発に向けて、大学だけでなくアリーナという拠点があることを前提に、将来的にこのエリア全体の考え方の検討を進める段階に入ったのではないかと考える。

○高橋座長（大阪市副市長）

- 橋爪先生からアリーナの規模についてご指摘あったが、関西のマーケットの中の規模感について事務局から追加説明があるならば発言願いたい。

○事務局（大阪都市計画局）

- アリーナの現状について、近畿圏のアリーナは先ほど橋爪先生のお話からもあったようにエンドステージ、いわゆるステージの位置を会場の端に設定して、会場の収容人数を設定した場合、大阪城ホールは約6,000～11,000人程度の施設、神戸市の神戸アリーナプロジェクトは約10,000人規模、旧万博記念公園アリーナの計画は約18,000人規模となっている。一方で、首都圏のアリーナは、現在建設予定のLaLa arena TOKYO-BAY、TOYOTA ARENA TOKYO、川崎新！アリーナシティ・プロジェクトなど10,000人以上の規模のアリーナの新設が予定されている。首都圏の既存のアリーナとして、国立代々木競技場 第一体育館、横浜アリーナ、有明アリーナ、さいたまスーパーアリーナなどは収容人数約13,000人から、Kアリーナ横浜は20,000人の規模である。

○森岡副知事（大阪府副知事）

- Osaka Metro、大阪公立大学においては大阪城東部地区のまちづくりの方向性を踏まえた1.5期開発

方針に大きく寄与する開発構想のご提案いただき御礼を申し上げる。JR 西日本においては歩行者ネットワークとして非常に重要な大阪城公園接続デッキについて前向きに検討するというご発言をいただき、御礼を申し上げる。検討会関係者の皆様のご協力のもと、1.5 期開発の開発方針の案を示され、事業化の道筋を立てることができた。その中で、想定スケジュールが示されているが、本年度の都市計画手続きの着手を皮切りに、事業者公募の実施など、まちびらきに向けた取り組みを早急に進めていただけたらと考えているのでよろしくお願ひしたい。

○高橋座長（大阪市副市長）

- このような 1 万人以上の規模がキーになるため、Osaka Metro におかれては、検討についてよろしくお願ひしたい。

○横山市長（大阪市長）

- 本日に今日を楽しみにしており、すごくわくわくするビジョンのご説明であったし、また各委員の皆様からも素晴らしいご意見をいただいた。
- このエリアは知事からもお話があったが、今後はヒガシの拠点として京橋や OBP、豊里矢田線のあり方も含め、回遊性を高めてヒガシの一大拠点として成長していくまちづくりを進めていきたい。
- 1 点目、私も橋爪先生もアリーナが非常にセンセーショナルだと考えている。近畿圏では 10,000 人を超える収容人数のアリーナが足りてないというのは言われており、大阪城ホールでも 6,200～11,000 人で、首都圏には多くの収容人数のアリーナがあるが、愛知県が来年の 7 月に IG アリーナという 15,000 人規模のアリーナをオープンする。この中で、新たに森之宮にアリーナができることは非常に喜ばしいことであり、エンターテインメントや色々なことを楽しみながらアリーナを楽しむといった最新機能もぜひ付加していただきたい。
- もう 1 点はイノベーション・コアゾーンとして、ぜひ連携強化をしていただきたいということである。新たに Osaka Metro の駅ビルができることも非常に楽しみで、ここに空飛ぶクルマの離発着場を整備するというので、まさにイノベーション・コアにふさわしい機能を備えたビルができると思う。この駅周辺の一体整備はぜひ Osaka Metro に進めていただき、大阪公立大学と駅ビル、大学と中浜下水処理場、大学と大阪城、大学と森之宮センターというように、この周辺には非常に多くの公共的に価値が高い施設も揃っているため、大学をハブとして周辺施設と連携強化していただきたい。大阪公立大学の理事長からも、大学の今後の方針の説明の際に、イノベーションの強化についてご説明いただいた。ぜひこの駅ビルとの連携も進めていただきたい。アメリカのシカゴに 24 時間 365 日開いているスタートアップの施設があり、若い人たちのたまり場として気軽に行ってそこで話をしてスタートアップが軌道に乗っていくというような環境が海外は整っていると感じた。これを日本で作るためにはどうしたらよいかという観点からも、若い人たちが大学で起業して学び駅ビルなどと連携して、知恵や技術を共有できるようなたまり場のような場所作りというのを、ぜひ皆様とも連携していただきたい。
- 一番大事であることは、関係機関と連携を深めていただいて、ヒガシの一大拠点として次世代の大阪をリードする場所として発展していただきたい。また、駅前空間の整備に関しては Osaka Metro の一体開発のイメージが重要だと思うので、ぜひ引き続きお力をいただいてヒガシの拠点として確立していただきたい。

○吉村知事（大阪府知事）

- 学識経験者の方、また事業者の皆様からお話を聞き、森之宮地区・大阪城東部地区が素晴らしいものになると本当にわくわくしている。
- 大阪公立大学の新キャンパスと、Osaka Metro の次世代モビリティを応用した最新の新駅、10,000 人以上の規模の大規模アリーナなどが一体となって最先端のまちづくりがここで行われる。そして、隣には大阪城公園があり、古きと新しきが交わる素晴らしいイノベーションの拠点になると思っているし、ぜひそこをめざしていただきたい。
- 岡井先生のご指摘から「居住」についても非常に重要であると認識した。多世代居住複合ゾーンについて、今回まちづくりを進める上で、学生や研究者が集まり多くの人々が新駅へ向かい、交わる

場所になる中で、「住」の部分がないと感じた。

- ・UR 都市機構に伺いたいが、例えば、大学の学生、研究者、それから大学では官民連携により色々なイノベーションをめざす拠点を作ろうとしている。民間の方が入ってきたときに、このまちづくりと融合させるような居住のあり方が起こるとまちづくりとして生きてくると思う。普通に UR 都市機構として募集するのではなく、特別な取り計らいをしていただけないか。このまちづくりの方針を示していただいて、これに合う形で、もちろん現在もお住まいの方がおられ、すぐに建替えるわけでもないと思うし、これまで様々なご検討の結果というのはお聞きしているが、多くの学生たちが入ってくる中で居住についてこのまちづくりにちなんだ UR 都市機構のあり方を検討していただけないか。

○村上支社長（UR 都市機構）

- ・学生を対象に価格を下げることは難しいが、色々なやり方があると考えている。まず、実験的にどのようなことができるのかということであるが、イノベーションとはトライアンドエラーであるため、旧支社を活用していただこうと考えている。
- ・住まいについては、当然学生が学生寮を借りる場合、大学に借り上げていただいて活用するシステムがある。今住んでいる方に移っていただくことは難しいため、連携協定などを結び事務的に取り組むことはできる。
- ・大事なのは全体のコンセプトをどうするかということだと認識しているため、どのような方々に使っていただいて、どのような方々にお住まいいただいて、アウトプットをどのように求めるかという共通認識がまちの皆様も含めてできると非常に取り組みやすいかと考えている。

○吉村知事（大阪府知事）

- ・方向性だけでもご指摘いただきありがたい。せっかくまちづくりの会を作っており、今後より具体化されてくると思うので、その中で関係者と多世代居住複合ゾーンについて、第2期の整備段階であるが、すでに始まっている中で居住の部分の UR 都市機構のあり方についても、コンセプトのもとで一緒に進めていけたらと考えるのでよろしくお願ひしたい。
- ・もう一つは、中心になってくるのは新駅・駅ビル・駅前空間で非常に重要である。そして、情報はインフラとして考えるべきであり、近隣の OBP や京橋を含めた面で考えるべきであるということはおっしゃられる通りと考える。今、横山市長が進めている難波宮跡もかなり変わってくるため、ここもある意味一体で、一体になってくると、様々な高級ホテルも建設され非常に価値が高く、大阪城という唯一無二の空間と大阪城公園を中心としたまちづくりは優位性が高いため、面で見えていく必要がある。
- ・スローモビリティとのコネクトやデジタル化の様々な意見をいただいたので、ここはぜひ Osaka Metro に取り組んでいただきたい。また、初めての駅ビルと駅前空間の開発だとうかがったので、森之宮の新駅ができることをとても楽しみにしているが、ここを出発点として、陸・海・空、陸でいくと様々な新しいモビリティなど、最先端のデジタルを駆使し、地下鉄から降り立った時に近いエリアがモビリティでつながることは非常に大切であり、強化していただきたいと考えているがどのようにお考えか。

○河井社長（Osaka Metro）

- ・おっしゃる通りである。今は個別に走行しているモビリティを、データで連携しながら、一体で運行していく必要がある。弊社も、モビリティ全体を総合監視、遠隔制御できるようなコントロールセンターを構築したいと考えている。地下鉄や地上のモビリティだけではなく、生活に必要なデータを含めて、全て一体で、多様な形でお客さまに伝わっていくというような社会が当然必要であり、それをめざしていきたい。その観点で、ORDEN の話も含め、データ基盤によって、できるだけつながる形がよいと考えている。
- ・人に優しいということや、人が快適に歩けるということと、いかに融合させて作っていくかなどについて、なかなか難易度は高いと考えるが、しっかりコンセプトを醸し出せるような駅前空間をめざしていきたい。

○吉村知事（大阪府知事）

- ・ぜひ進めていただきたい。快適に歩ける空間もとても大切だと考える。大阪公立大学の新キャンパスを核として、1.5期キャンパスが官民連携で整備され、豊里矢田線も含めてつながっていかないといけないと考える。そして、歩行者空間については、アリーナと新駅と JR 大阪城公園駅の接続デッキのつながりはとても大切であり、ぜひそこは関係者間で連携していただきたい。
- ・大阪府市のまちづくりの担当の皆様へのお願いだが、水辺の歩行者空間をいかに綺麗にするのがとても大切と思う。水辺の空間は価値が高く、大阪城の船着場も新しくできたほか、船で中之島の方へもつながりができてきている。大阪城公園と JR 大阪城公園駅との接続デッキを含めた水辺の歩行空間を歩いているだけで楽しく幸せな気持ちになるくらいの歩行空間をぜひ検討をお願いしたい。また、費用をできるだけ安くして節約して作る方法もあると思うが、ここはせっかくこれだけ素晴らしい空間ができるので、必要な予算があればそれを確保し、大阪城公園駅と新駅のつながりと大阪公立大学までの歩行空間は特に重要で、とりわけ、水辺の歩行者空間である第二寝屋川沿いの新駅から大阪城公園駅までのところは技術的なハードルもあると思うが Osaka Metro の森之宮検車場もあれば JR 電車区もあり線路もあるが、水辺空間の道路についてここはすごいと思ってもらえるようなデザインを含め考えていただきたい。JR の大阪城公園駅を使う人はここで降り立って新駅やアリーナ、キャンパスへ行く。大阪城公園に行くお客様もたくさんおられるが、大阪城公園を楽しんで移動するときは必ずここを通ることになる。そうするとこの水辺の歩行者空間と大阪城公園が接続することは、とてもまちづくりで重要なものになると思うので、JR に協力をお願いして、散歩だけでも行ってみたいと思えるような空間を考えていただきたい。

○事務局（大阪都市計画局）

- ・知事のご指摘、ご指示もあり、水辺空間につきましては全くその通りと考えている。これから開発が進むに伴い、上質な歩行空間並びにその水辺の特性を生かしたということで、大阪にはすぐ隣に船着場や、また大川筋、中之島といった先例があるので、ここから学びながら、それを超えるような水辺空間を皆様のお力添えを賜りながら進めてまいりたい。

○吉村知事（大阪府知事）

- ・大阪城東部地区の森之宮地区は価値が高いエリアになると思っており、そのようなまちづくりをしたいため、関係者の皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

○高橋座長（大阪市副市長）

- ・本日事務局から提案のあった開発方針の位置づけや土地利用の方針、基盤整備の方針といった整理については、進めさせていただいてよろしいか。（異議なし）

3. 閉会

○横山市長（大阪市長）

- ・本日は活発なご意見もいただき、改めてお礼を申し上げます。ヒガシの一大拠点が加速していくイメージが本日改めて示されたということで本当に喜ばしく思う。
- ・新駅設置に向けた都市計画手続きは今月からスタートし、来年度からは事業者公募がスタートするなどいよいよ本格的に動き出していく。
- ・先ほど知事からご指摘があったが、多世代居住複合ゾーンのあり方、そして水辺空間のあり方は、水の都であるため水辺空間を豊かに作ることは非常に重要であると考えます。ぜひ進めていただけたらと思うとともに、スタートアップの観点から駅前ビルについてもお力添えいただきたい。大阪公立大学、Osaka Metro、UR 都市機構、JR 西日本と大阪府市が協力にタッグを組んで各機関が連携し、この一大拠点づくりを加速させていきたいので、よろしくお願ひ申し上げます。